

学生アスリートの行為規範に関する考察

岩田 佳穂 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員：鳥羽 賢二

キーワード：学生アスリート，行為規範，結束力

1. はじめに

今日の日本のスポーツ界では、多くの学生も含むトップアスリートが国際大会で活躍する。それらは国民から注目を浴び、憧れの的になる。一方でアスリートが、スポーツシーンの活躍とは程遠いところで不祥事を起こすと多大な批判を浴びる。世間はアスリートに対してよい評価やイメージを持っていることがあり、不祥事を起こすと大々的にメディアに取り上げられてしまう傾向がある。

このような背景の中からもわかるように、アスリートは社会の中で善悪にかかわらず、影響力の高い存在であることがわかる。

そこで本研究は、社会のロールモデルであるべき学生アスリートがなぜ不祥事を起こしてしまうのか、学生アスリート自身や指導法、環境、組織に起因しているのではないかと仮説し、それらの問題が何故起こるのかを究明することを目的とする。

2. 研究方法

- 1) 文献調査：スポーツ法規に関する文献調査及び、スポーツルールに関する先行文献
- 2) アンケート調査：本学の運動部活動である男女4クラブ計146名(回収率 83%)を対象とし、行為規範に関する意識調査を実施。
- 3) 上記のエビデンスをもとに、学生アスリートの行為規範に関して考察する。

3. 調査結果と考察

学生アスリートの行為規範意識調査の結果より学生アスリートの実態が明らかとなった。アンケート調査での自由記述回答などをもとに、学生アスリートの行為規範についてまとめたものが表1の4つである。

高校まで厳しい規則の中で行動してきた反面大学での生活の自由さに慣れてしまい、規則に対して必ず守らないといけないという意識が低くなっている(①・②)ことが理解できる。また、学生アスリートの意識の中に「見つからなければ良い」や「明るみにでなければ良い」(③)といった軽い気持ちがあることがわかる。

エビデンスの中で特に注目すべき点は、学生アスリートは、スポーツ集団に所属していることから、同じ目標を持ち日々練習に取り組むことから、必要以上に協調性が高く結束力が強い(④)ということである。

表1：学生アスリート自身が問題とらえている行為 (筆者作成)

① 学校の規則と部活動の規則が緩い。
② 学校や部活動の規則に対しての意識の低さがある。
③ 世間に見つからなければルールを犯しても良いと思っている。
④ 必要以上に協調性が高い。

4. まとめ

アスリートが日常的に集団で行動することで、結束力が強いが故に、高潔性が欠落すると図1の上矢印のように、ネガティブな事を加速させることがある。アスリートは協調性が高いことから強い結束力と団結力を持っており、規範を守るフェアプレイ精神と、高潔性(integrity)が正常に働けば競技力向上に直結する。高潔性は競技力を向上させるには不可欠なものとなっているのである。

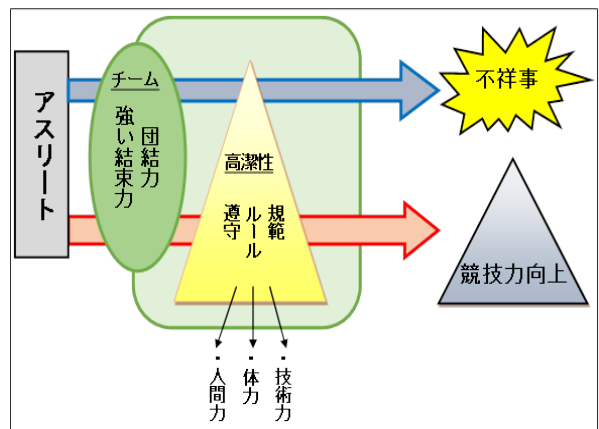


図1：学生アスリートの結束力が及ぼす影響 (筆者作成)

主な引用・参考文献

小倉 泰憲 (2014)「大学生の規範意識と社会性の発達—山形大学学生不祥事防止検討プロジェクトの取り組みから」